



■発行元■

南国市大涌甲 1479-3
医療法人つくし会 南国病院
TEL 088-864-3137
<http://www.nankoku-hp.or.jp>

新年のご挨拶

病院長 中澤 宏之

明けましておめでとうございます。職員の皆様にはそれぞれ良いお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年来国政は迷走を続け医療情勢も厳しい状況が続いておりますが、こういう時期だからこそ、我々民間病院自身がしっかりした組織の体制強化を行い、いかなる変化にも対応できる柔軟性と下を向かない強いリーダーシップが必要であると気持ちを新たにしております。

いよいよ医療機能評価受審の年となりましたが、これまで準備してきた皆様方の努力がきっと実を結ぶものと信じております。何よりも既にあらゆる診療の現場で改善点が見受けられます。職員の皆様の意識が変わり、目標が明確になり、チーム医療が推進されていますし、病院全体としても自らレベルアップしていく基盤ができてきたと実感しているところです。

今年も、各部署から年間の事業計画を掲げて頂く事としていますが、各病棟・外来運営の活性化、在宅医療の推進に関しては、皆様方からの積極的な提案を期待しています。また、それらを実現させるために必要な施設整備も行います。病院としても、引き続き人材育成に力を注ぎ、当院独自の職能評価・面接制度の体制化、教育・研修体制の更なる強化に努めたいと考えています。院内研修会への参加だけでなく、院外の学会・研修会への参加や当院からの発表が今後増えていくことを楽しみにしています。また、数年来進めてきました敷地内全面禁煙を本年3月末で完了すべく、患者様、職員の皆様に対する禁煙教育を続けてまいります。平成22年2月の厚生労働省健康局長通知により、健康増進法第25条で定める「多数の者が利用する公共的な空間での受動喫煙防止」が「原則全面禁煙」に変更されましたが、当然病院もその施設に該当しており、社会的な義務を果たす意味でも必ず達成しなければならない目標と考えます。改めて皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

今年一年それぞれの目標に向かって、職員の皆様が一致団結した取り組みができることを期待しています。新年が皆様方にとって一層の活躍の年となり、当院にとって飛躍の年になるよう祈念しています。

第6回四国摂食・嚥下研究会に参加して

リハビリテーション部 言語聴覚療法室 桑原生子

平成22年10月29日に「第6回四国摂食・嚥下研究会」が国立病院機構 高松医療センターで開催されました。当院からは、中澤院長先生、栄養部の洲賀崎和花さん、言語聴覚療法室の桑原が参加しました。

内容としては、摂食・嚥下認定看護師による「活動報告」や管理栄養士による「おやつについての取り組み」、神経内科医師による「在宅療養患者（末期癌や神経難病）への地域NST活動の報告」、耳鼻科医による「喉頭気管分離術後に気管切開部の対応に苦慮した症例報告」など多職種による摂食嚥下に関する8演題の発表がありました。

当院からも桑原が「咀嚼リズムがパーキンソン病患者の摂食時に見られるすくみ現象に与える効果について」という演題で発表しました。今回はこの内容について簡単に報告しようと思います。この発表は、病気の進行とともに嚥下機能が増悪し、ミキサー菜や軟食を摂取しているパーキンソン病(PD)患者さんの中に「せんべい」や「クッキー」などの硬いものはスムーズに嚥下できる方がいて、その現象に興味を持ったのが始まりでした。詳しく調べるために患者さんの軟菜やパウンドケーキとクッキー摂取時の嚥下造影検査を比較したところ、検査を行った患者さん9例の中で軟らかい物を摂取した時にすくみ現象（摂食運動の途中で動作がとまること）が見られた患者さん全例で硬いクッキーではすくみ現象が見られないという結果が得られました。さらにすくみ現象を伴い硬いものがスムーズに嚥下できた例では軟らかい物を摂取した時に比べクッキー摂取時に嚥下反射運動に要した時間の短縮も認められました。この結果を踏まえ、咀嚼リズムや音が嚥下運動に及ぼす効果について考察し発表しました。

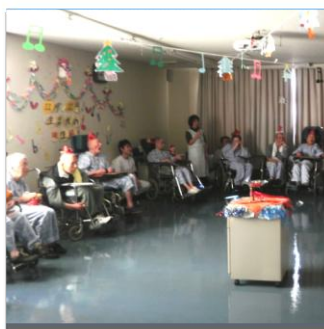
発表をまとめてみて、嚥下のすくみについてはまだ論文などの報告が少なく、私の中でも消化できていないところが多くあると気付きました。今後の課題として症例を増やし、様々な角度からの考察を行い、また機会があれば発表ができればと思っています。

今回の発表に際し、まだ曖昧だった私の考えに耳を傾け、発表をするように勧め、ご指導して下さった院長先生、発表にあたり検査食を快く作って下さった栄養部、VFのときにお世話になった看護部に感謝します。

この研究会は、演題数は少ないですが、医師やSTだけではなく、食事に関わる様々な職種の演題があり、毎年有意義な会だと感じます。今後は当院からもSTだけではなく栄養士さん、看護師さんなども発表ができればと考えます。



3病棟の誕生会&クリスマス会 平成22年12月22日(水)



今回はクリスマス会ということで、師長サンタやスタッフのチャーミングな UFO のダンスが登場しました。
この二ヶ月に一回の誕生会はレクレーション係りを中心にスタッフみんなで毎回その季節にあったものでホールの飾り付けやしし物を演出・準備しています。
忙しい業務の合間をぬっての作業なので大変なこともあります。当日の患者さんの嬉しそうな笑顔に支えられながら頑張っています。



3病棟看護師 猪野 弥生



餅つき

平成22年12月27日(月)

デイケアメンバーさんの作品



起き上がり“うさぎ”



“願いのツリー”



平成22年度神経難病医療従事者研修

第1回 平成22年 9月13~15日 4名
 第2回 平成22年 10月18~20日 4名

早いもので、神経難病医療従事者研修の受け入れを始めて4年が経過しました。

受け入れ当初は、資料やプログラム作りを戸惑いながら行ったものです。次第に慣れてくると、研修内容の見直しもできるようになり、現在は神経難病の患者様と接する事やコミュニケーションをとる方法に重点をおいた内容へと変わりつつあります。

当院で研修を受けた方達が、それぞれの地域で神経難病患者様の看護を行い神経難病医療ネットワークが充実すれば、研修機関も当院だけでなく幅広くなると思います。

私達は神経難病看護の最前線にいて、いつも迷いながら進んでいます。

研修事業を続けることで、高知県のあちこちに仲間を増やしたいものです。

2病棟看護師長 井河 里佳

研修内容	
一日目	ミニ講義(神経難病医療) 病棟オリエンテーション リハビリテーション見学 食事準備・簡易懸濁法・PEGの確認 入浴・入浴後処置・レスピレーター説明点検 吸引手技・コミュニケーション
二日目	ミニ講義(神経難病医療) カニューレ交換 人工呼吸器回路交換 リハビリテーション見学 入浴・入浴後処置・レスピレーター説明点検 吸引手技・コミュニケーション
三日目	人工呼吸器装着患者等 神経難病患者の訪問看護実習 研修総括



外来待ち時間調査の結果報告

平成22年12月

待ち時間の短縮やその他のサービス向上を目的として、外来に来られた患者さんに待ち時間に対する意識調査を12月に行いました。

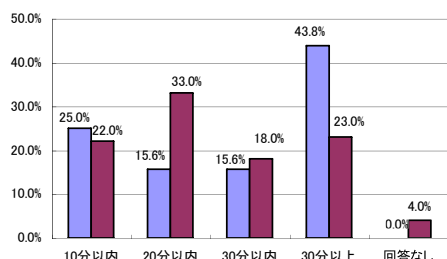
今回は全診療科に予約制を導入してから初めて行った調査でしたが、前回は21年9月の調査と比較して、診察までの待ち時間については20分以内が増え、30分以上の待ち時間は20%減りました。しかし、診察時間については、満足(やや満足)な患者さんが8%減りました。会計、薬局での待ち時間については改善傾向にありますが、まだまだ不満と感じている患者さんも多いのでさらなる改善に努めていかなければなりません。総合的にみた待ち時間については、満足と回答された患者さんが8%増え、不満と回答された患者さんが11%減り、改善しています。予約制の導入が一定の効果をもたらしたものと考えられます。ただ、予約時間の設定等まだまだ課題はあるので、徐々に改善していくようにしていかなければなりません。

患者さんからのご意見では、「予約して、1時間待ちは少し長い」「薬の待ち時間が長いので出直してくる(仕方ない)」などのご意見をいただきました。良い点では「院内がとても清潔で、気持ちがいい」「職員の皆様の気配り、心配りに感謝しています」などいい評価をいただきました。

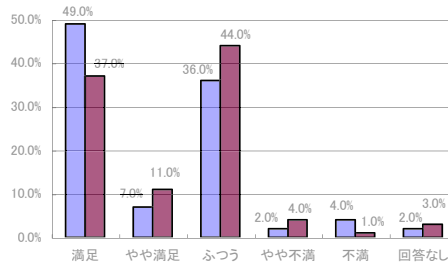
総じて皆さんが病院に対しいい印象を持ってくださっているので、職員も現状に満足せずに、さらに一丸となって待ち時間の短縮とその他のサービスの向上に取り組んでいきます。

業務改善委員会

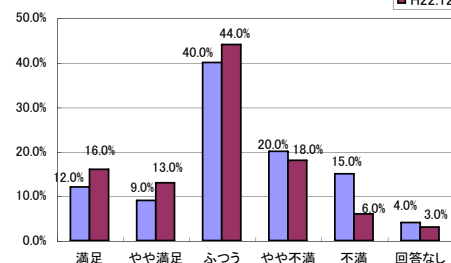
診察までの待ち時間はどれくらいでしたか



診察時間についてどう思われましたか



総合的にみて待ち時間についてどう思われましたか



病院の理念

1. 安全で質の高い医療によって地域に貢献します。
2. 信頼関係に基づき暖かい医療を提供します。
3. 専門性を追求し自己研鑽に努めます。

基本方針

1. 病院が地域の社会資源であるとの認識に立ち、本院の専門性を通して、地域の医療と福祉に貢献します。
2. 本院は、脳と神経及び精神の疾病や障害を主な診療対象として、その神経学的、精神医学的診断、治療と臨床的研究に努めます。
3. 個々の患者とその家族への十分な説明とそれに基づく納得の上での同意を前提として診療を行います。
4. 本院での医療行為は、科学的根拠に基づき、自由に暖かい生命倫理に立って行います。医療環境が常に清潔で、明るく保たれる様努力します。
5. 本院の職員は、常に自己の資質と医療技術の向上に努め、病める人たちへの奉仕者としての自覚を持ちます。

平成 22 年 4 月 1 日改訂

当院は患者さんの信頼に基づき適切な医療を行うために患者さんの基本的な権利を尊重します。

患者さんの権利

1. 患者さんが適切な医療を平等に受ける権利
患者さんは差別されることなく平等に、当院で達成可能な医療を受ける権利があります。
2. 患者さんの人格、価値観が常に尊重される権利
患者さんはひとり人間として、その人格、価値観などが尊重されます。
3. 患者さんが医師等から十分な説明を受け、自らの意志で医療行為を選択・決定する権利
患者さんは、医療の内容、治療・検査などの効果・危険性、他の治療法などについて説明を受け、医療の内容を十分理解し、同意した上で、適切な医療を選択し、受ける権利があります。同意できない場合は、医療を受けることを拒否することもできます。
4. 患者さんがご自身の診療に関する情報の提供を受ける権利
患者さんは、当院で行われたご自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
5. 患者さんの個人情報、プライバシーが保障される権利
患者さんは、病院内での生活を、可能な限り、他人に侵害されない権利があります。また、医療の過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者さんの承諾なしには開示されない権利があります。

患者さんへのお願い

患者さんには、私たちが、安全かつ適切な医療の提供を行うために、次のことをお願いいたします。

1. ご自身の体調に関する情報を正しくお伝え下さい。
2. 医療に関するご希望を率直にお伝え下さい。
3. 検査や治療などの医療行為は十分なご理解と合意の上でお受け下さい。
4. 療養上必要な制約を受けることをご理解下さい。
5. 他の患者さんの治療や職員の業務に支障をきたさないようご協力下さい。

診療のご案内

診療科目	神経内科 精神科 消化器内科 内科 リハビリテーション科 放射線科
診療時間	月～金 午前 8:30～12:30 午後 1:30～5:00 土 午前 8:30～12:30
休日診療	なし 但し急患は診療いたします
面会時間	午前 9:00 ～ 午後 9:00
予約診療	全ての診療科において予約診療を行っております
救急指定	なし
健康診断・人間ドック	あり 脳神経検診、消化器検診

		月	火	水	木	金	土
午前	神経内科	1 診	吉村	院長	吉村	齋藤	院長
	精神科	2 診	玉元	森田	玉元	玉元	森田
	消化器内科 内科	3 診	川村	川村	川村	川村	川村 ※1
午後	精神科	2 診	森田	玉元		森田	
	消化器内科 内科	3 診	川村 ※2			川村 ※2	

- ※1. 川村医師の土曜日の診察は第2, 第4土曜日のみです。
 ※2. 診察時間は 15:00～17:00 までです。

平成 22 年 12 月

外来患者数	2,021 名
(内 新 患 数)	98 名
1日平均入院患者数	151 名
精神科デイケア利用者総数	421 名
通所リハビリテーション利用者総数	261 名
訪問看護ステーションおおそね訪問件数	127 件

■認定・指定

日本神経学会教育関連施設
 日本静脈経腸栄養学会
 NST 稼動施設
 高知県神経難病医療
 ネットワーク基幹協力病院

■病床数

病床数 162 床
 特殊疾患病棟 (I) 46 床
 医療療養病棟 56 床
 精神療養病棟 60 床

